



うんなん
ビジョン

2025-2034

第3次雲南市総合計画



わたしは、コウノトリ。

いろんな国のいろんなまちを旅して、

家族でしあわせに暮らせるまちを探してきた。

わたしたちは、ずっと昔から人間の近くに暮らしてきたんだ。

人間の近くは、見晴らしもよくなって

安心して暮らせるし、

なんといっても田んぼがあって、

そこには生き物が沢山いるからご飯にも困らない。

最近はそのな“ちょうどいい”ところが

なかなか見つけれなかった。

そんなとき、このまちを見つけたんだ。

わたしがこのまちで暮らすことにした理由

多様な生き物がいっぱい

わたしたちコウノトリは、いろんな種類の生き物をたくさん食べて生きている。いろいろなまちを見たけど、人の近くで他の生き物が生きるのは結構むずかしいことらしい。でも、このまちは人と生き物が近くに暮らしているんだ。その証拠に、このまちにはたくさんのホタルが飛んでるでしょ。ホタルに聞けば、わたしたちの大好きな生き物たちがどこにいるか教えてくれるんだ。



古くから続く営み

昔、このまちは“たたら”と呼ばれる鉄づくりのまちとして、とつても発展していたらしい。鉄のもとになる砂鉄を取るために崩した山は、田んぼとして使ったり、燃料として使う木も切り尽くしてしまわないようにしっかりルールをつくっていたんだ。このまちの先人たちは、昔から自然と一緒に発展することを考えていたんだね。

チャレンジを支える人たち

わたしが「このまちで家族と暮らす」というチャレンジを始めたら、このまちの人たちは、大人も子どももわたしたちが暮らしやすいように、草を刈ってくれたり、冬の田んぼに水を残して寒い時期にもわたしたちが食べ物に困らないようしてくれたり、いろんな努力をしてくれた。今もそれは続いている。

人にとつても“住みたい田舎”

わたしたちは人もいて多様な自然もしっかりある場所に暮らしてきた。このまちは、豊かな自然に囲まれながら都市部までのアクセスも良くて、移住先としても注目されているらしい。これからのことを考えると、そんなまちがいいな、ってわたしは思ったの。

見えないものを大切にする

日本で一番古い歴史の本によると、この地域にはむかし怖いオロチがいて、それを神さまが倒してくれた話が残っているらしい。今でもいろんな場所にその言い伝えが残ってるんだ。

しあわせや優しさ、平和や多様性とか、本当に大切なものって目に見えないものが多いよね。

10年後、わたしたちは どんな空を飛んでいるんだろう

わたしがここで暮らし始めて7年がたった2023年、

10年に一度更新されるまちの大きな計画がつくられているって聞いた。

10年後って、どんな感じなんだろう。

わたしたちは30年くらい生きるって言われているから、

10年後はまだ、わたしも大空を飛んでいたい。

このまちの計画は、わたしたちコウノトリにとってもすごく重要なこと。

昔、わたしたちが日本の空を飛べなくなったときのようなことも起きるから。



うんなん ビジョン 2025-2034

第3次雲南市総合計画

将来像

10年後の雲南市のめざす姿、
つくりたいまちの姿

00頁

施策

将来像の実現に向けた3つの柱と12の施策

00頁

基本理念

将来像の実現に向けた基本的な考え方、心構え

●第3次雲南市総合計画

00頁

●第2次雲南市総合計画

00頁

●第1次雲南市総合計画

00頁

●神話の時代から続く営み

00頁

ステージ0

ステージ1

ステージ2

ステージ3

GOAL

START



ステージ0

はるか昔から続く人と自然のつながり

全国最多の銅鐸39個が1カ所から出土した加茂岩倉遺跡は、古代日本の歴史研究に衝撃を与えました。さらに、邪馬台国の卑弥呼が魏からもらったとされる100枚の銅鏡のうちの1枚が神原神社古墳で発見されています。

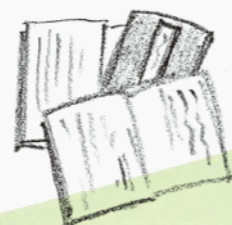
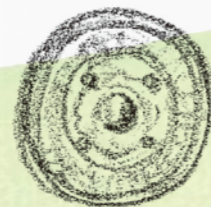
日本最古の歴史書「古事記」や「日本書紀」に記されたヤマタノオロチ伝説をはじめとした神話や、地誌「出雲国風土記」に記された地名や神社が私たちのまちには今もなお連続と受け継がれています。



銅剣・銅鐸(約2,000年前)



景初三年銘三角縁神獸鏡(239年)



古事記(712年)



出雲国風土記(733年)

自然との共生による 生業づくり

古くから斐伊川の支流周辺の低地では農耕が営まれ、山間地ではたたら製鉄や炭焼きがさかんに行われてきました。



持続可能な開発をした先人

江戸時代から近世にかけては、たたら製鉄がまちの一大産業となり繁栄しました。伝統的な製鉄と農業とを結びつけ、製鉄の原料となる砂鉄を採取した鉱山跡地を計画的に耕地に造成してきました。その中心地である吉田町では、往時の面影を残す貴重な建造物や街並みが残っています。

神話

伝承

地名

産品

古事記や出雲国風土記に記された神話や伝承、地名、産品は、今も数多くこのまちに残っています。

2004年-2014年
第1次雲南市総合計画

ステージ1

地域自主組織を基盤とする協働の仕組み

雲南市は、大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町の6町村が合併して平成16年11月1日に誕生しました。

新市の誕生と同時に策定した「第1次雲南市総合計画」では、「生命(いのち)と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をまちづくりの理念に掲げ、ふるさとが継承してきた恵みを更に磨き高め、交流を盛んにしていこうとまちづくりに踏み出しました。

平成20年に「雲南市まちづくり基本条例」を定め、市民・議会・行政の3者が力をあわせてまちづくりをすすめていくための基本的なルールを決めました。地域自主組織を単位として、自らの地域は自らの手でよくしていこうとする「協働」のまちづくりの仕組みが進展しました。

2015年-2024年
第2次雲南市総合計画

ステージ2

チャレンジの風土・文化づくり

平成27年には、令和6年度までの10年間のまちづくりの目標と方向性を示す「第2次雲南市総合計画」を策定しました。基本理念の実現に向け、「課題先進地から課題解決先進地」になることをめざし、「人口の社会増」への挑戦をスタートしました。

平成31年に「雲南市チャレンジ推進条例」を定め、子どもから大人まで、様々な主体によるチャレンジがつながり、互いに影響し合いながら拡大する、「チャレンジの連鎖」が生まれるまちの実現をめざしてきました。

2025年-2034年
第3次雲南市総合計画

ステージ3



基本理念

変わらず、変える

変わらず、大切にすること

そのために勇気をもって変えること

人と人がつながるあたたかなコミュニティ。
人と自然が調和した里山の暮らし。
神話が息づく豊かな歴史と文化。

これは、市民が共通して感じている雲南市の魅力です。
わたしたちがあたりまえに感じているこれらの魅力をよく見ると
目には見えない3つの関係性が調和することによって
育まれていることに気づきます。

それは「人と人」「人と自然」「人と歴史・文化」のつながりです。

孤立化や分断が進む現代にあって、
これらのつながりを次世代につなぐことは、わたしたちの責務です。
そのためには、前例にとらわれない新しい発想で、
変えるべきものを変えていくことが求められます。

変わらず、変える。

これを今後のまちづくりにおける
基本となる考え方、大切にする姿勢に定めます。



将来像

えすこな雲南市

Well-being for all UNNAN

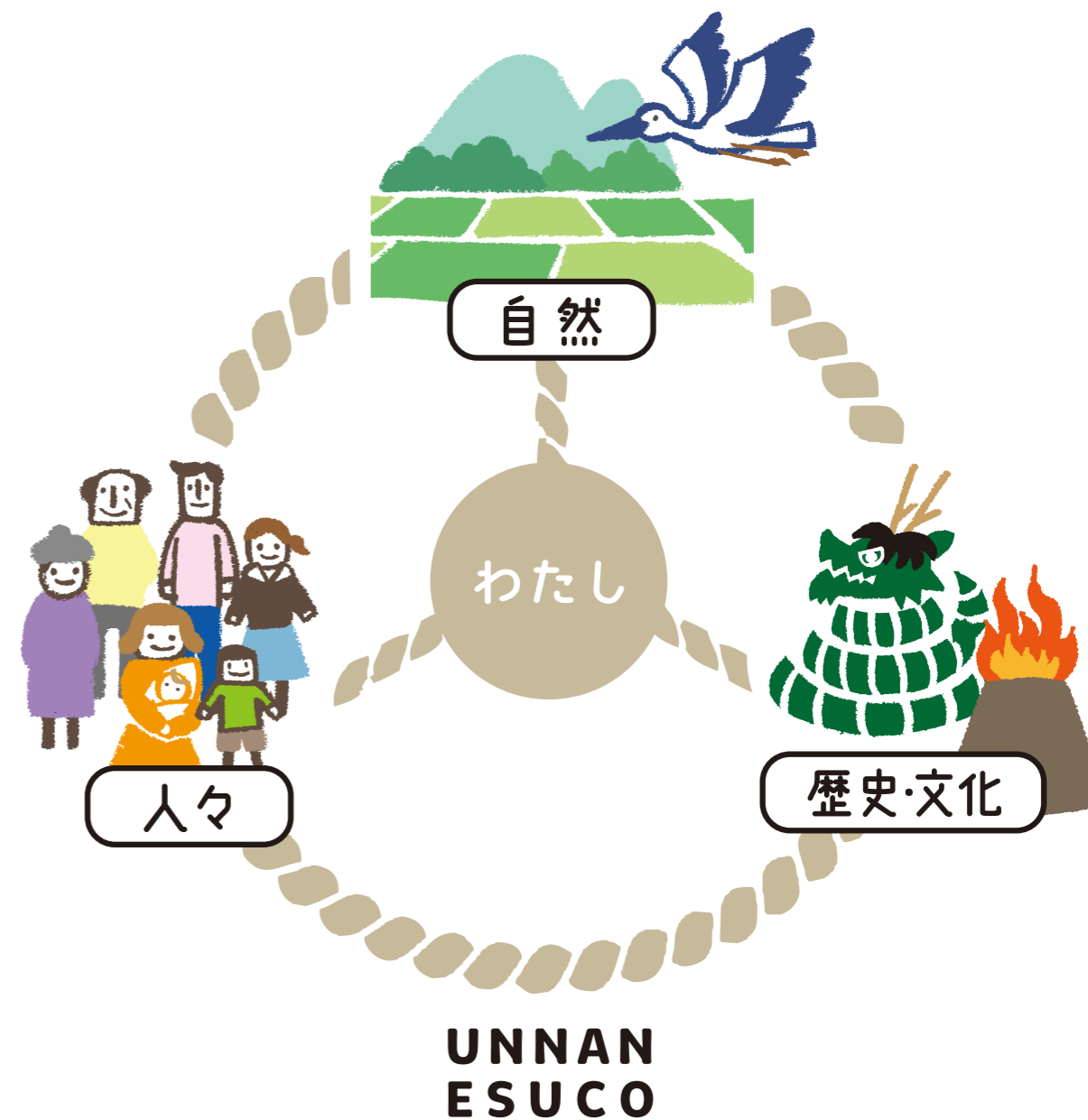
みんなが幸せに暮らせるまち

「えすこ」とは、この地域の方言で「ちょうどよい状態」、「いい具合」を意味する言葉です。

これから私たちが歩む未来は、さらに激しい変化と、不確実で複雑なものになると言われています。だからこそ、私たちはその時々「えすこな雲南市とは？」という問いに向かい続ける必要があります。

えすことは、「雲南らしさ」です。
えすことは、「調和」です。

今だけ、自分だけではなく、「人與人」「人と自然」「人と歴史・文化」のつながりの中で、みんなが幸せに暮らせる持続可能なまちの実現をめざし「えすこな雲南市」を将来像に掲げます。



実現したいシーン

市民の皆さんからの意見をまとめていくと、
えすこに「暮らす」、えすこに「育む」、
えすこに「創る」の3つの言葉になりました。
3つの言葉を分かりやすく伝えるために絵にしました。



近所の
あたたかな
縁側



自然の中で快適に過ごせる

えすこに
おせっかい



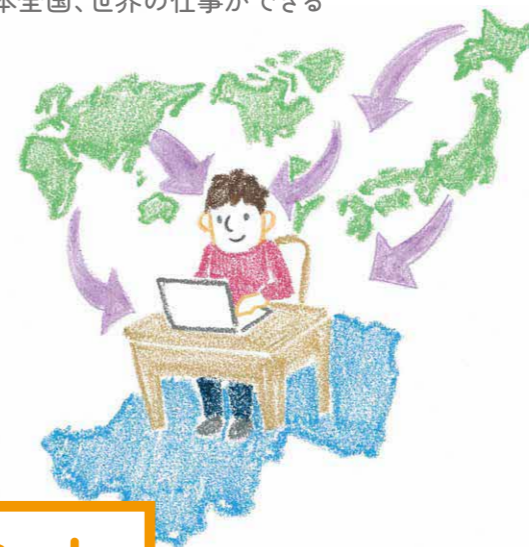
えすこに

暮らす

出会えるまち



雲南市から
日本全国、世界の仕事ができる



安心な
暮らしが続く



みんなが笑顔



一人暮らしでも
安心して暮らせる



こどもが川遊びや
芋掘りをしている



世界中から
学びに来る!



田舎の中で
体験留学



おじいちゃん、おばあちゃんも
父さん、母さん、孫も
いこいの場と一緒に。



えすこに

育む

イキイキと自分らしく
生きている大人



お年寄りも学ぶ



ひとり
ひと畑



選手、スタッフ、
応援者のみんなが
楽しんでいる



文化の継承が
できる



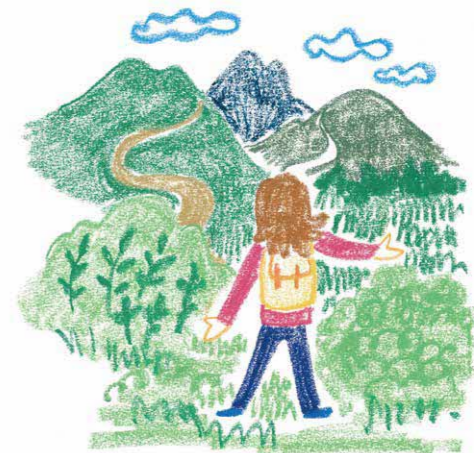


エネルギー、水、
自然が巡っている

おじいちゃん、おばあちゃんと
高校生、大学生が一緒に起業



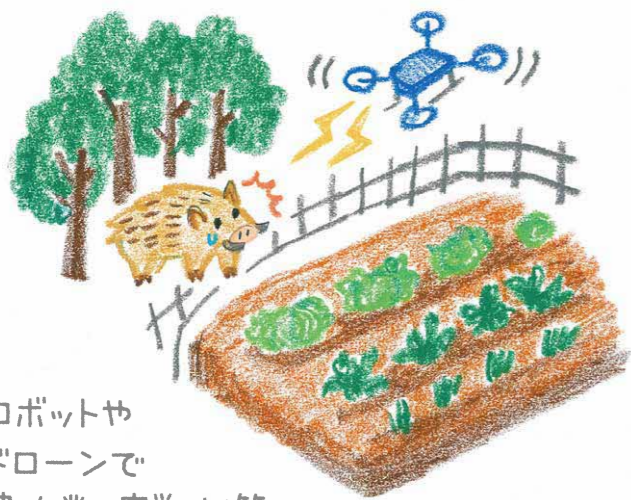
近くの農園で
野菜づくり



自然の恵みを生かす
チャレンジャーが活躍!

えすこに

創る



ロボットや
ドローンで
農作業・害獣対策

世界中から観光客が
訪れるまち



好きなことや社会貢献が
お金になる



世界で挑戦した
雲南出身者が
地元貢献している

人とロボットが
共同作業





「えすこな雲南市」の実現に向けた 3つの柱と12の施策

「えすこな雲南市」をよいかたちでこれからにつないでいくため、
 “えすこに暮らす(暮らし)”“えすこに育む(人づくり)”
 “えすこに創る(価値創造)”の3つの柱(観点)を共通軸に据え、
 分野横断で基本構想の実現を図ります。

みんなが主役の自治のまち

協働/自治/コミュニティ

どこでも安心して暮らせるまち

交通/インフラ/土地利用/防災

みんながずっと元気なまち

保健/医療/福祉

みんなで 子どもを育てるまち

結婚/出産/子育て

えすこな
雲南市

えすこに
暮らす
暮らし

えすこに
創る
価値創造

えすこに
育む
人づくり

自然の恵みがめぐるまち

自然環境/エネルギー/循環型農業

みんなのたからを誇るまち

観光/ブランディング

挑戦し活力を産みだすまち

産業/経済

みんながみんなを大切にするまち

平和と人権/多様性の尊重/多文化共生

チャレンジが生まれるまち

人材の育成・確保

ふるさとを学び育つまち

教育

人の輪が広がるまち

移住定住/人材還流/関係人口

心の豊かさを実感できるまち

スポーツ/文化

えすこなまちの姿〈土地利用ビジョン〉

地域の特性を活かした均衡ある発展に配慮しながら、市街地整備をすすめる都市機能地域、農地として生産振興を図りつつ交流活動やUターンを促進する地域、山林など環境保全をすすめる地域、宅地開発などをすすめる住環境開発地域を設定し、計画的な土地利用を図ります。市全体の視点にたった機能分担や連携を図り、それぞれの地域にあった「暮らしやすさ」が感じられるまちをめざします。



あなたの“えすこ”からはじめよう！

うんなんのえすこな状態は、あなたにとってのえすこな状態からはじまります。そして、あなたが“自分自身のえすこ”を考えると、「人々」「自然」「歴史・文化」とのつながりを少しだけ意識してみてください。今すぐにつながらなくても、大丈夫です。

私たちが大切にしようとするつながりは、まずは、あなたが意識することからはじまります。一度、途切れたように見えるつながりも意識することで、再び取り戻すことができることを、コウノトリは教えてくれました。きっと、ほかのつながりも同じです。

行動するとき、決めるとき、ぜひ“うんなんのえすこ”を思い出してください。

わたし …………… わたしにとっていいことか

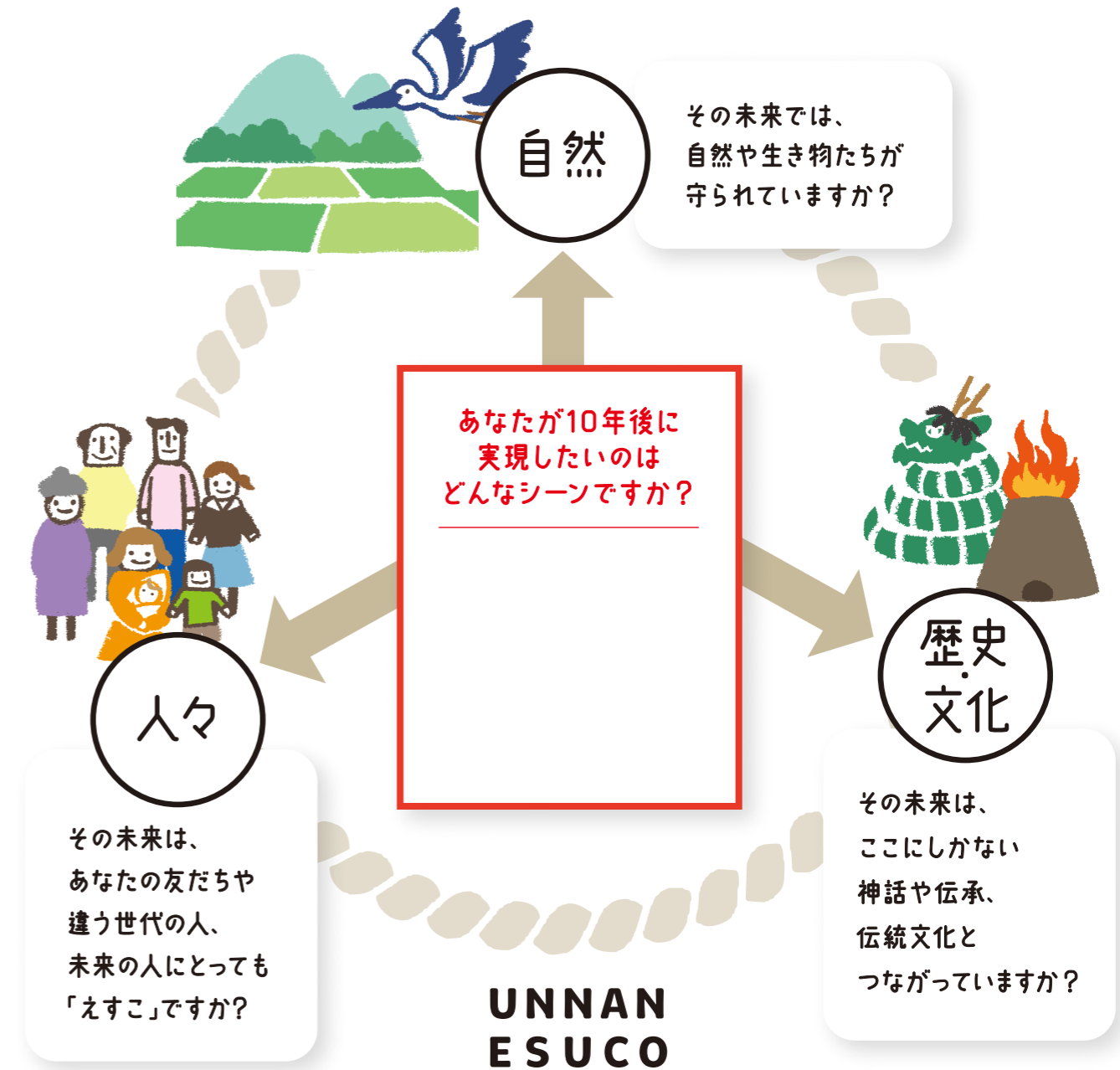
人々 …………… 周りの人にとってもいいことか

自分とは違う世代にとってもいいことか

次の世代にとってもいい状態が保たれるか

自然 …………… 生物の多様性は守られるか

歴史・文化 …… 先人が大切にしてきたモノ、コトのつながりがよい状態で保たれているか





これは市民のみなさんからいただいた「実現したいシーン」をイラストであらわしたものです。